

FoEドイツ代表来日 国際セミナー in 東京

セミナー2：市民運動が後押ししたエネルギー政策転換

●日時：9月21日（水）17:00～19:00

●会場：衆議院第二議員会館 多目的会議室

●開催趣旨

ドイツ市民の脱原発の声は、1998年に社会民主党政権を誕生させ、2002年の脱原発の制定にもつながりました。メルケル政権で原発延命の議論も出てきたものの、福島原発事故直後に再検討を決定。5月30日、改めて2022年までの脱原発が決定しました。同時に、2000年に導入された再生可能エネルギー買取法によって、再生可能エネルギー利用は右肩上がりに上昇、現在、送発電量の2割にも達しています。ここでも、独自に再生可能エネルギー導入を進める市民イニシアチブが制度づくりを後押ししました。

エネルギー・原子力政策転換にいたる政策決定プロセスと市民運動について、ドイツの経験をもとに、FoEドイツの活動についても聞きながら議論します。

●内容：

「ドイツの市民運動が動かしたエネルギー政策転換」

フーベルト・ヴァイガー(FoEドイツ)

・ゲストプロフィール：フーベルト・ヴァイガー(FoEドイツ代表)

ミュンヘン大学教授。専門は森林生態学。1975年よりFoEドイツに参加、農業問題研究会メンバー等をつとめる。2007年より代表。



<FoE ドイツ(BUND)>

国際的な環境団体のネットワークFriends of the Earth(FoE)のドイツメンバー。

ドイツ最大の環境団体で約48万人の会員とドイツ各地のローカルネットワークを持つ。

原子力問題は発足以来大きなテーマのひとつであり、現在、福島の状況もウェブサイト等で知らせ支援を呼びかけている。

■主催

国際環境NGO FoE Japan(フレンズ・オブ・ジ・アース・ジャパン) www.foejapan.org

〒171-0014 東京都豊島区池袋3-30-8 みらい館大明1F tel: 03-6907-7217

fax: 03-6907-7219 email: finance@foejapan.org